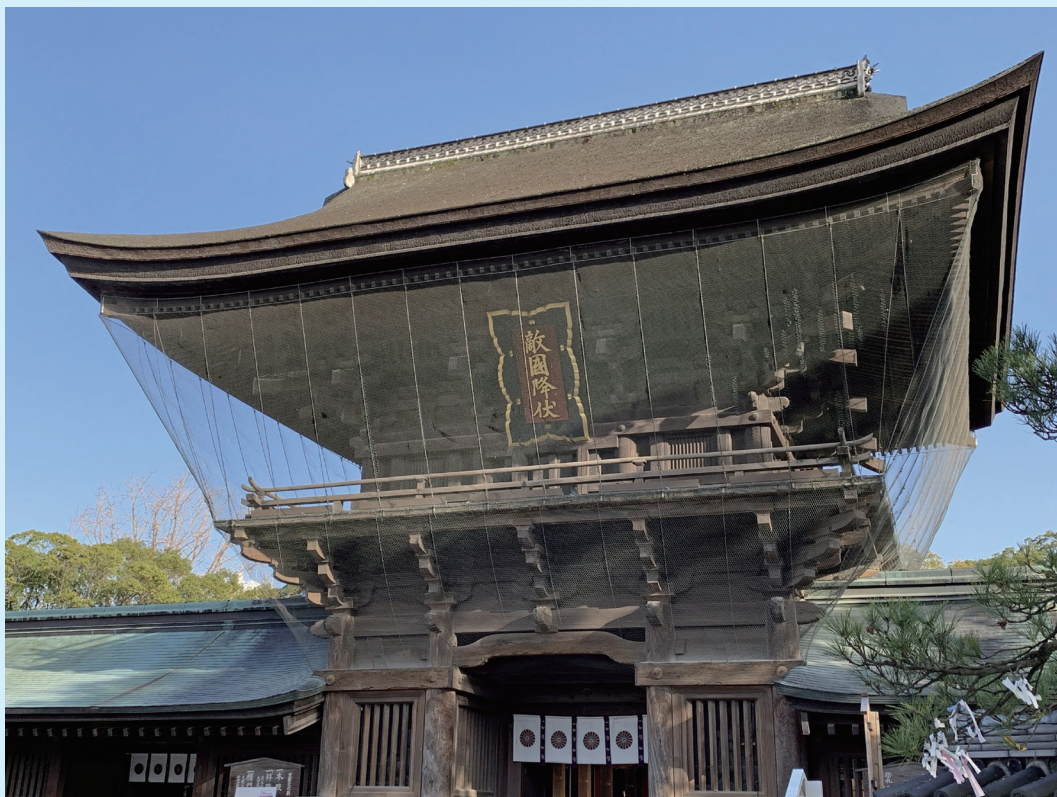


筥崎宮と古民家の残るまち

箱崎・馬出



筥崎宮(楼門)



藤野家住宅(外観)



箱嶋家住宅(中の間)

神と伝統の領域 箱崎

箱崎は古くは白羅良（しいら）の濱、または葦津ヶ浦と言っていました。

神功皇后が応神天皇を筑紫の蚊田の里（今の糟屋郡宇美町）で御出産され、その御胞衣（えな）を筥に納め、その上に標として松を植えられました。これが現在の筥松であり、箱崎の名の起こりです。

明治22（1889）年に糟屋郡唯一の町として箱崎町が誕生しました。その後、昭和15（1940）年福岡市に編入されるまで、糟屋郡の郡都として政治、経済の中心地でした。



御神木「筥松」

日本三大八幡
たいしゃ はこぎきぐう
① **大社 筥崎宮**

ご 祭 神

応神天皇（八幡大神）・神功皇后・玉依姫命

筥崎宮は醍醐天皇の延喜21（921）年に創建され、宇佐・石清水と共に日本三大八幡として人々の崇敬厚く、特に鎌倉時代以降は武神として武家の信仰を集めました。



本殿・拝殿（国指定重要文化財）

筥崎宮は延長元（923）年、穂波郡（筑前）大分宮を遷座されました。現在の本殿・拝殿は天文15（1546）年大内義隆、楼門は文禄3（1594）年に小早川隆景により建立されたものです。なお、「敵国降伏」宸筆（しんぴつ）を掲げる楼門は伏敵門として有名です。

いずれも国の重要文化財です。筥崎宮の祭事では、正月の玉取祭、秋の放生会は有名で、博多の町の季節を代表する大祭となっています。



玉取祭

かめやまじょうこうそんぞうとほうあんでん
亀山上皇尊像と奉安殿



木製の亀山上皇尊像（県指定文化財）を安置する奉安殿が、平成23（2011）年に完成し、同年10月から一般公開されています。

亀山上皇の立ち姿の尊像は、高さ約6mのヒノキ製で、博多区出身の木彫家、山崎朝雲が明治35（1902）年に制作し、福岡市博多区の東公園に置かれている銅像の原型とされています。

奉安殿は高さ9mの木造平屋建、屋根は銅板、壁は真っ白なしっくい仕立て、正面の扉を開けるとガラス越しに亀山上皇尊像を見ることができます。



奉安殿

弘安4年（弘安の役＝1281年）に蒙古軍が再び我が国を襲来。亀山上皇は伊勢神宮に「敵国降伏」を祈願するための勅使を派遣し、宸筆の願文には「身命にかえて国難撃攘」を祈願する文言が書かれてあったといわれています。



一の鳥居（国指定重要文化財）

いしとうろう
石灯籠

天正15（1587）年の夏、豊臣秀吉が九州平定の後、宮崎宮に20日間滞陣して博多の町割などを行いました。

その時、秀吉が催した箱崎茶会に随行した千利休による奉納と伝えられています。灯籠の底に観応元（1350）年の鉛があります。（国指定重要文化財）



石灯籠（国指定重要文化財）

ちくぜんこくいちのみやはこざきはちまんぐう

■筑前国一宮筥崎八幡宮

筥崎宮の一の鳥居横に「筑前国一宮筥崎八幡宮」の石碑があり、筑前国続風土記には、「筥崎八幡宮は、延喜式神名帳に、那珂郡八幡大菩薩箱崎宮一座大とあり、今は糟屋郡に属す。」と記載されています。

げんこうかきよくひ

■元寇歌曲碑

元の国が、文永11（1274）年と弘安4（1281）年の2度に亘って襲来してから、700年以上になります。当時、私達の祖先は博多湾の海岸一帯に防塁を築き、神社仏閣に敵国降伏を祈願するなど国をあげての防衛に神仏のご加護もあって、日本征服の野望を挫折させました。私達が今日あることに感謝するため、また陸軍軍楽隊員の永井建子が作詞作曲した唱歌「元寇」を長く保存するために、「日本唱歌保存愛唱会」が元寇ゆかりの筥崎宮の境内にこの碑を昭和56（1981）年建立しました。



元寇歌曲碑

とうせんとう

■唐船塔

謡曲「唐船」は、日本に捕らわれた唐人にまつわる物語です。祖慶官人（そけい かんにん）は箱崎殿（筥崎宮大宮司）に仕え、日本人妻との間に2人の子をもうけて平和に暮らしていました。やがて唐土に残した子供2人が迎えに来たので、箱崎殿はこれを憐み日本で生まれた子も連れて帰ることを許しました。親子共々喜んで帰りましたが、夫婦、母子別れの悲劇もからまった物語です。迎えに来た子が、父がもし死んでいたら建てようと持ってきた供養塔が、唐船塔といわれています。

聖福寺の画僧仙崖和尚の作で「箱崎のいそべの千鳥親と子と、なきにしこえをのこす唐船」という歌があります。また、祖慶官人と妻とが別れるときに腰かけて名残を惜しんだといわれる一対の石を「夫婦石」といっています。

おしおい

■お潮井

博多では、箱崎浜のお潮井（真砂）を、てぼ（籠）に入れ家の玄関に備え外出のとき、身に振りかけて災厄から逃れる事を祈ります。

家屋の新築の際は敷地をはらい清め、農家では田畑にお潮井を撒いて虫よけ、豊作を祈ります。

この起源は古くからの神事で禊祓（みそぎばらい）に基づくものです。

春秋の2度、春分と秋分の日には1番近い「つちのえ」の日を社日祭といい、お潮井取りの神事が賑やかに行われています。

このお潮井は厄除開運の祈願がしてあります。

■ わきでいし 湧出石

この石に触れると運が湧き出るといわれ、招福開運の信仰があります。
また、国に一大事があるとき地上に姿を現わすという古い言い伝えがあります。

■ さざれ石

国歌「君が代」に詠まれている「さざれ石」です。岐阜県と滋賀県の境の伊吹山の麓に産し、学名は石灰質礫岩です。永年の間に石灰質が雨水で溶けて生じた粘着力の強い乳状液が、小石を凝結して次第に巨岩となり苔むすといわれています。

■ おおくす 大楠

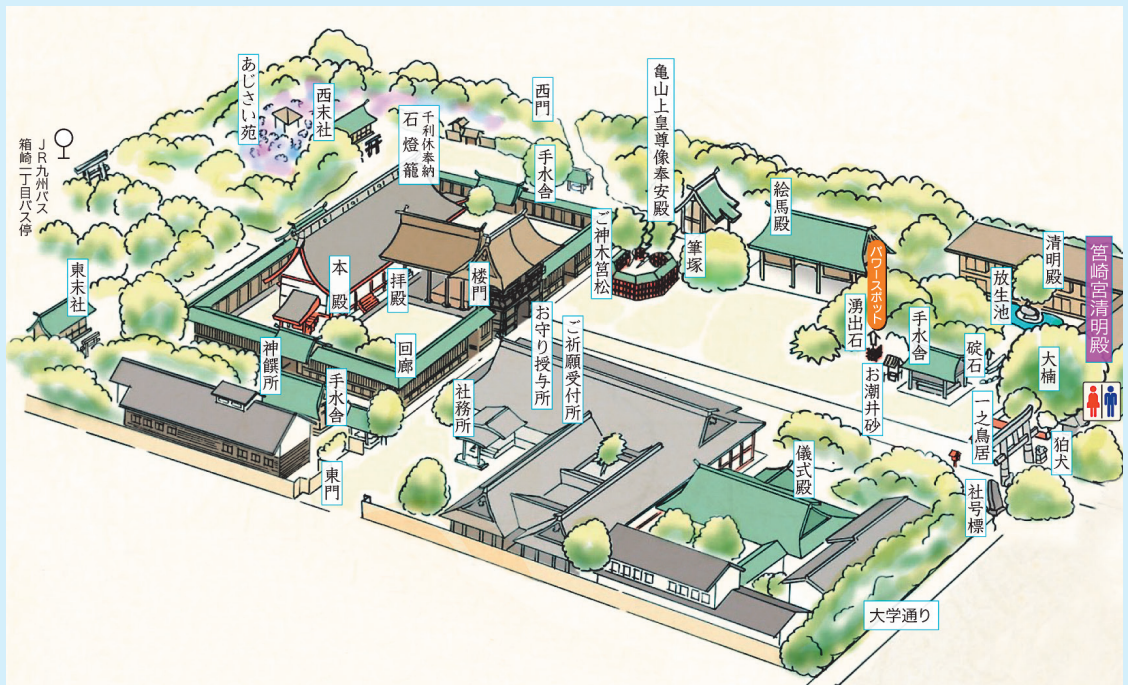
樹齢800年との表示があり、この大楠は元の国が来襲（文永と弘安）した元寇の有様を見たことでしょう。

■ もうこくんせんいかりいし 蒙古軍船碇石

文永11（1274）年10月20日、蒙古軍3万は、900隻の艦船に乗って博多に迫り、終日我が軍と激戦を交え、本宮も兵火によって焼失しました。翌21日朝には、意外にも湾内から姿を消しました。世上ではこれは神風によるものだといわれています。

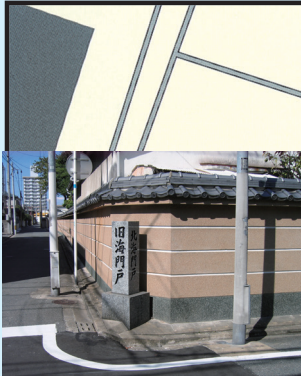
古来博多付近には蒙古軍船の碇石と称するものが十数本あり、肥前から壱岐にかけても5本ほどあって、いずれも海中から引揚げられたものです。場所がら歴史的記念物であるとして珍重されてきました。

この碇石は博多港中央波止場付近の海中から引揚げられた6本中の1本で、石質は赭色凝灰岩（しゃしょくぎょうかいがん）です。



菅崎宮発行パンフレット
日本三大八幡『菅崎宮』より

はこ ぎき しゆく 箱 崎 宿



旧海門戸石碑



旧御茶屋跡之碑



はこぎきしゆく からつかいどう ② 箱崎宿 (唐津街道)

唐津街道は、博多～箱崎～青柳と進みます。箱崎宿は、筥崎宮の門前町として栄えました。旅人（武士町人に限らず）が、博多を過ぎて箱崎宿までは、正装で威厳を示し、ここで旅の軽装に着替えて

青柳宿をめざします。帰りは、長い旅を終えて箱崎宿まで辿り着いた旅人は、軽装から正装に着替えます。もちろん旅の無事と辿り着いた感謝を筥崎宮に御祈りしたことでしょう。

③ おちゃやあと 御茶屋跡

黒田藩の、通称本陣とか大名宿ともいわれ、参勤交代の諸大名、重臣や幕府の要人等の宿泊、休憩に利用された別邸「御茶屋」があります。

今は住宅街に変貌していますが、当時は別棟の茶室からは、壮大な箱崎松原や博多湾が一望できたことでしょう。

④ あみやてんまんぐう 網屋天満宮



現在の網屋天満宮は、黒田藩の御茶屋があったところです。箱崎浦網屋天満宮は、享保10（1725）年頃菅原道真公を漁師の守護神として、祭礼を行ってきました。弘化3（1846）年に新たに天神社殿を建立し、信仰を集めています。昭和29（1954）年4月に箱崎浜から現在地に移転しました。

◆ えびすじんじゃ 恵比寿神社



箱崎漁師の守護神として信仰を集めていましたが、昭和27（1952）年網屋天神境内に移転建立されました。

恵比寿祭りとして、毎年正月3日漁師総出で早朝から集まり、大漁・安全祈願・福の神として祭礼を行っています。

◆ ひしりかんのん 聖観音



寛永3（1750）年の夏、網屋一带に大火災が発生。殆んど焼失されようとなりましたが、観音菩薩様のお蔭で不思議と治まり、以来「焼けずの観音」として崇拜され、信仰を深めています。

◆ くしらづか 鯨塚

明治21（1888）年博多湾で、捕獲された鯨の霊を弔うため、網屋の漁師達が建てたもので、旧九州大学構内にあったものを現在地に移転して祭っています。



しゃそうかんのん
⑤ 車僧観音

昔々、大和国吉野郡上北山村の白瀧山宝泉禅寺の正虎禅師は、常に破れた車に乗って、好きな所に行くので車僧といわれ、また700年前のことをよく話したので700歳ともいわれていました。ある年の夏、箱崎に来て海生寺（のち海蔵寺）境内の松の傍らで座禅修行をしました。同時に多々良濱の合戦で亡くなった兵士を供養しました。正虎禅師を尊敬していた村人は、座禅の姿を仏様として信仰し、座禅修行していた松樹の傍らに石仏を安置しました。今でも線香や献花が絶えません。車僧観音と呼ばれるのは、正虎禅師が熱心な観音信仰者だったからといわれています。



よねやまべんざいてん
⑥ 米山弁財天

筥崎宮の末社で、宗像三女神（田心姫・湍津姫・市杵嶋姫）を祭っています。神功皇后の三韓征伐の折り、箱崎三山（米山・砂山・道具山）を兵站基地としたとの伝説があり、ここは、米俵の集積場所だったといわれ、そのため米山町といえます。

米山弁財天の石碑は、箱崎出身の元内閣総理大臣広田弘毅の実父広田徳平が建立しました。



ちょうしょうぜんじ
⑦ 長性禅寺（臨済宗）

潮音山長性禅寺といい、妙心寺派です。本尊はお釈迦様を真中に左に文殊菩薩、右に普賢菩薩が祭ってあります。建立は、室町時代で、開山は南谷聖奘禅師（なんこくしょうせきぜんじ）です。相撲力士の「十五夜どん」は黒田藩のお抱え力士でしたが、強すぎて土俵で相手を投げ殺したため、恨みを買って、妬まれて毒殺されました。明治9年の150回忌に「十五夜どん」追善相撲が行われ、同

時に記念碑「十五夜雲神碑」が境内に設置されました。



いっこうじ
⑧ 一光寺



金龍山道場院といい、浄土宗の寺院です。一光寺は行發漢阿上人により箱崎の海門戸町にあり、天文20（1551）年に創建され、箱崎地区の名刹です。

たまとりえびすじんじゃ
⑨ 玉取恵比寿神社



正月3日には玉取祭が行われ、直径1尺余の木珠を、箱崎馬出の地元の若者が、「玉取恵比寿神社」から筥崎宮の拝殿まで、珠を争って奪い合う勇壮な行事です。木珠を取得した村は、その年の豊作または豊漁となるとの言い伝えがあります。俗に「玉せせり」と言いますが「せせり」とは、「触れる、競う」という意味です。

しょうらくじ
⑩ 勝楽寺（禅宗）



貝原益軒の『筑前国続風土記』に、「寶幢山と号す。箱崎町にあり、多々良村の顯孝寺の二世放牛林禅師開基の地なり。宗祇が筑紫紀行に、勝楽寺は則當社の神社なりと云り。又八幡宮の祈祷所なりし由、古文書にあり。」と記しています。現在は筥崎宮との関係はありません。

ぐんきょうせき
⑪ 郡境石



筥崎宮一の鳥居を馬出側の境内境角に旧唐津街道の名残を伝える糟屋郡と那珂郡との郡境の石碑があります。現在は、箱崎校区と馬出校区の境界となっています。

まい だし 馬 出



まいだし

馬出

は、菅崎宮のすぐ西から始まり、この西の入口に郡境石「従是東表糟屋郡」があります。『筑前国続風土記』には「この町の東はづれより西を那珂郡とし、東を糟屋郡とす。八幡宮の西の側なる横道を以て郡境とす。」とあります。古くは那珂郡馬出村で、放生会で、行列に参加する馬や、「流鏝馬」行事の馬などを調教して菅崎宮に納めていたことから、馬出という地名が起こったと考えられます。菅崎宮の祭典に使用する器具（神具・神敷・三宝）の製造に始まり、飯びつ、折り箱など生活道具も作られた曲物を箱崎曲げ物といい、同商品は馬出において製作され、その技術が代々継承されています。

また、九州大学医学部や附属病院があり、利休ゆかりの釜掛け松の碑など史跡、名勝や寺院も多く、歴史ある町です。

昭和3（1928）年福岡市に編入して、福岡市大字馬出となりました。戦後の町名改正にもその名は残りました。

はかたまげもの
⑫ 博多曲物

曲物（まげもの）とは、薄くした樹木を丸く曲げて形を作り、底をつけた容器のこと。筥崎宮の祭具として使われる木工芸品で、東区馬出で作られています。博多曲物の代表作は脚つき四角い御膳のぼっぼ膳松竹梅と鶴亀を描いた祝い膳で七五三のお祝い用として子供たちの健やかな成長を願って使われています。他にも、茶道具・蒸籠・飯びつ・折箱など日用品も多く作られています。中でも鶴の絵は「幸福が外に逃げていかないように」という思いを込めて、あえて逆さまに描かれています。



まいだし どうぶつえん
⑬ 馬出にあった動物園



昭和8（1933）年8月、昭和天皇即位を記念して、福岡市で初めての動物園が、当時の東公園内、現在の馬出小学校敷地西側あたりに造られました。入園者も年毎に増え、新たな動物も加わり、福岡市の名所となりました。

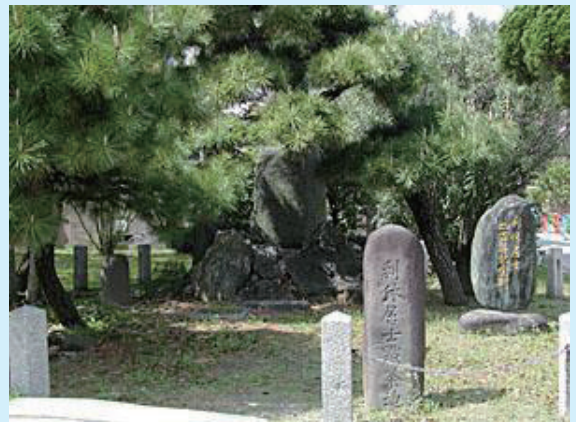
しかし、太平洋戦争が始まり、戦局が進むにつれ、空襲で園内が被害を受けた時のことを考え、昭和19（1944）年5月に閉じられました。

オットセイの池にあった赤い六角堂（浮見堂）が大濠公園に移され、馬出小学校にはゾウの顔をかたどった門柱（福岡市登録有形文化財）が残されています。

りきゅうかまかけのまつ
⑭ 利休釜掛の松

天正15（1587）年6月、豊臣秀吉は九州遠征の時、筥崎宮に20日あまり滞在し、小寺休夢（黒田如水の叔父）らと和歌を詠じ、千利休や神屋宗湛と茶会を催しました。秀吉の命により、利休は箱崎松原の松の枝に鎖をかけ、雲龍の小釜を吊り、白砂の上の松葉を焚いて、茶をたてたと伝えられています。

これが野点の始まりです。現在、旧九州大学医学部構内に、この事跡を伝える「釜掛松」の碑があります。



はこしまてい
⑮ 箱嶋邸

町家「箱嶋邸」は明治5（1872）年に建てられたと伝えられています。間口6.7m、奥行き23mの細長い造り。通り庭に家の守り神である荒神様が祭られています。左側には天窓とベンガラ漆塗りらんかんがある吹き抜けの「中の間」が並びます。

筥崎宮の門前町、唐津街道の宿場町としてにぎわった往時をしのばせる町家です。国の登録有形文化財です。

おきなわけじんじゃ かがみのい
⑯ 翁別神社「鏡の井」

馬出2丁目の翁別神社創立は延喜3（903）年といわれています。祭神は武内宿禰（たけうちのすくね）。境内には美しい十六宵姫が鏡がわりに姿を写した伝説で知られている井戸「鏡の井」があります。『筑前国続風土記』には「…、其後太閤茶の湯を松原にて輿し給ひし時、利休この井の清冷なるを見立て點茶の水をこれより汲しといふ。…」とあり、千利休が利用したそうです。



えこういんとうろうどう
⑰ 恵光院燈籠堂

恵光院は、寛永年間（1624～1644）に創建された真言宗のお寺で、その境内に燈籠堂があります。

この燈籠堂は、もともと筥崎宮の参道脇にあったもので、維新政府の神仏分離令により明治3（1870）年に恵光院に移設されました。

燈籠堂は、承元2（1208）年の建立とされ、当時は三重閣のお堂で、上閣に燈籠を掲げ、それぞれに観音様が安置されていたと伝えられています。

今もこの燈籠堂のご本尊は、石体座像の十一面観世音菩薩で、中国南宋時代の作と称されています。

博多の豪商神屋宗湛の「宗湛日記」によると、天正15（1587）年6月14日、千利休が宗湛及び島井宗室、柴田宗仁と共にこの燈籠堂で茶会を催したことが記されています。



しょうみょうじ はかただいぶつだいざ
⑱ 称名寺「博多大仏台座」

称名寺は金波山西岸院と号す時宗の寺で、元応2（1320）年乗阿上人が開山しました。施主は称阿・名阿父子で、2人の名を取って称名寺としました。この寺には「博多大仏」があり、これは兵庫県
の能福寺に建立された大仏の首をもらい受けて改鑄し、明治45（1912）年に、当時片土居町（現・下川端町）にあった称名寺境内に建立された青銅製の釈迦如来坐像です。博多名物として住民に親しまれていましたが、大正7（1918）年、現・馬出に移されました。町名「馬出大仏通」と呼ばれていました。その後、昭和19（1944）年に戦時の金属供出に

よって姿を消しました。この大仏には石造りの台座が設けられており、現在も境内には台座とともに「八宗祖師像」が残されています。制作は「最後の博多仏師」と言われた高田又四郎の名が像底などに記された銘文からわかります。



みょうとくぜんじ
⑲ 妙徳禅寺

曹洞宗の寺、妙徳禅寺は栄西が宋より帰り、始めて住居を定めたところと伝えられています。聖福寺が完成するまでの間、居住していました。馬出村の南に寺中町という横道があり、ここは栄西が妙徳寺に居住していたとき、宋より渡来して来た従者が居住していたところと伝えられています。その後、栄西が聖福寺に移ったとき、従者も聖福寺の境内に移り住んだということです。



かれのづか
⑳ 枯野塚

元禄12（1699）年、郷土の俳人哺川は、博多に滞在していた松尾芭蕉の高弟向井去来から芭蕉の辞世の句「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の短冊を送られました。哺川はこの好意に深く感謝し、同じ芭蕉の高弟志太野坡に「芭蕉翁の墓」の書を依頼し、元禄13（1700）年に枯野塚を建立しました。芭蕉追慕の塚碑としては、全国的にみて最も古い部類に属し、俳諧史上の価値が高いことなどから県の史跡に指定されています。



まつ松

しま島

②1 よねいちまるいしづくりくじゅうのとう 米一丸石造九重塔



駿河国の長者の子として生まれた米一丸は、文武両道に優れ、24, 5歳の頃仕えていた殿様の命により筑前博多へ名刀を

受け取りに行きました。殿様は米一丸の妻に横恋慕して、妻を奪おうと、博多の方に手を回し、米一丸を殺すように依頼しました。米一丸は、家来共々抵抗しましたが、多勢に無勢で、箱崎村地蔵松原まで逃れましたが遂に討ち死にしました。箱崎の村人はこれを哀れんで埋葬し、供養のため九重の塔婆と平石の塔を建てました。現在も8月17日、18日にお施餓鬼の供養を行っています。

ここでは、花と線香が絶やされず、歯痛、眼病平癒の仏様として崇められています。(県指定文化財)

②2 しょうぐんじぞうとしぞうまつばら 将軍地蔵と地蔵松原



地蔵仏は、小松重盛公（平重盛）が、平家の繁栄の願を掛け、宋国（中国）の育王山に砂金を送り、その見返りとして送られた仏様との伝説があります。地蔵堂は、寛永8（1631）年黒田忠之が建立。この地蔵菩薩と大日如来、薬師瑠璃光如来の諸仏と共に合祀されています。境内の板碑群とともに県指定文化財。この辺は、砂原でしたが、黒田長政公が慶長16（1611）年家臣竹森清左衛門に

命じて、松を博多から取り寄せて植え付け、その後松原となりました。地蔵堂があるため、地蔵松原といいます。



参考文献・資料

- 福岡市歴史散策 福岡地方紙研究会議まる
- 福岡歴史探訪 柳 猛直
- 東区またまた再発見 東区役所
- 古地図の中の福岡・博多 宮崎克則編 福岡アーカイブ研究会
- 唐津街道 豊前筑前福岡路 図書出版のぶ工房
- 街道と宿場町 アクロス福岡文化誌編纂委員会編
- 箱崎を語る必携集録 箱崎公民館・宮松公民館
- 博学博多・ふくおか「深」発見 西日本新聞
- 神社紀行 香椎宮・筥崎宮 学習研究社
- 箱崎四方山話 箱崎まちづくり協議会 古田鷹治
- 近世福岡 福岡歴史探検 福岡地方史研究会編
- ふくおか歴史散歩 福岡市市長室広報編集
- 筑紫菓匠 五十二万石如水庵・萩野忠行
- 筥崎宮発行パンフレット 大社筥崎宮
- 箱崎地区の伝承 箱崎校区箱崎伝統文化保存会
- 長性寺由緒文 長性寺住職提出
- 箱崎曲げ物 旧筥崎八幡宮別富109世筑紫頼定氏
- 「福岡市の文化財」ホームページ 福岡市経済観光文化局文化財活用課
- 筥崎宮公式ホームページ 大社 筥崎宮



「さんぽ会」のガイド(箱崎・玉取恵比寿神社)

お問い合わせ

福岡市東区総務部 生涯学習推進課

☎ 812-8653 福岡市東区箱崎2丁目54-1

☎ 092-645-1144 FAX 092-645-1042

E-mail gakushu.HIWO@city.fukuoka.lg.jp

箱崎・馬出・松島

箱崎・馬出



第1版 平成20年9月
第2版 平成24年9月
第3版 平成31年2月

■ 発行 福岡市東区総務部 生涯学習推進課
■ 編集 東区歴史ガイドボランティア連絡会「歩歩歩(さんぽ)会」

最寄りの交通機関の案内

箱崎・馬出地区《福岡市営地下鉄・箱崎線》

下車駅名 馬出九大病院前・箱崎宮前・箱崎九大前

《西鉄バス九大前行き》

下車駅名 県警本部前・馬出・箱崎・九大前

《JR九州》

下車駅名 箱崎・吉塚

松島地区《西鉄バス月見町行き》 下車駅名 米一丸

●東区歴史ガイドボランティア連絡会「歩歩歩(さんぽ)会」のホームページを公開しています
「さんぽ会TOP」 URL : <http://e-sanpokai.rojo.jp/>